

卒業生  
だより

二十九回生だより

六名にて目白の校門を出ましたが、六名とも健在、田代さんが群馬県に御在住のほか五名とも東京に集まりました。田代さんの御上京を機としてクラス会を開きます。電話にて連絡すれば、すぐ連絡がつきますのでOKで集まります。昨年は旧師瀬野先生をお招きして久しぶりに皆でそろいました。回生が人数が少ないので二十八回、三十回と一しよに集まつたり、その中、綿貫先生の伊豆の御住居におたずねする計画も考えております。

池田澄子姉 妹君、小児科女医のよき相談相手として、又家業の医院のよき経営者として御精励、一粒種のお嬢さんは今春西生田高等科御卒業。

野村なほ姉 夫君慈恵大学精神科教授のよき内助者として、御自宅小平学園に精神科病院を経営され御多忙にお過ごしでございます。

田代ヒデ姉 風光明眉なる榛名山の中腹群馬県下榛名女子学園（国立少年院）に教務課長として姉の深き薫習と全精力を集注せられ至難中の至難なるこの方面に御精励。

山野井ゆき子姉 卒業以來ずっとYWCAにお仕事につかれ、現在駿台YWに御在勤。

松本とみ姉 夫君東北大教育学部長のよき内助者として、五人の御子息のよき母君として御活躍。御子息の御教育のため昨年御夫君を仙台に残され東京に御転居。

立岩玄子 夫君金購運肥料部勤務、三男一女の家庭婦人。（立岩記）

新制五回生だより

半年以上の星霜が流れているが、まだ学生気分がすっかり抜け切れていない私達、クラスメートに逢つた時、昨日も一緒に生活していた様な気分て話題に花が咲くのである。本当にたのしいひとときと云える。

卒業の時に五十四人がいつも助け合つて行きましたよう、一人ぼっちじゃないのだ、ささやかながらも何か社会のためになれる様にと、努力を誓い合つてお互に第一歩を踏み出した。特に最近の状況では女子の就職先は非常にせびめられている中で、三十二人半数以上が社会事業、学校、編集、会社関係等の仕事に従事する事が出来、夫々のポストで科の先輩や、先人の良き御指導の下に実をあげつつある。この科で学んだ者としての自覚は女性の世間的職業観を脱皮して、そのフィールドワークに対し如何に適応し信頼される仕事をするかの努力をしている。社会人一年生は時には失敗もし、又ヒューマンリレーションの難しさに困惑しながらも誠実さをもつて真けんに仕事に取り組んでいる。

昨年度諸先輩の御協力の下に発表会を行なつた吉川さんは今年も桜楓会の御後援で日比谷公会堂の幕を開け、尚日々の精進を重ねて居られる。クラス全員が彼女の将来に期待を寄せている。

卒業後六月と十月の二度クラス会を持つている。在京の者はかりでなく、半数以上が集まつて来ている。各人の消息程度の葉書ではあるが通信も五回出し常に私達を結ぶきづなとしての役割を果たして貰っている。一行ずつでも好評で受け取つて頂いている様だ。

紙面の都合上各人の消息をお伝え出来ないのが残念であるが、五回生一同大いに元氣でいる。最後に先輩諸姉のよろしき御鞭撻をお願いし皆様方の御健闘御健康を紙上より祈つて。